



伊豆市

議会だより

No.7

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 2006.2.10発行



昨年の11月に湯ヶ島小学校2年生が社会科見学で議場を訪れました。（P.15に関連記事）

目次

CONTENTS

■ 議長『新春のあいさつ』	2
■ 市長行政報告	3
■ 議員『今年の抱負』	4
■ 12月定例議会の概要	6
■ 一般質問	8
■ 決議・請願	13
■ 委員会活動報告	14
■ 平成17年10月から12月の行事より	15
■ 市議会傍聴記・編集後記	16

地方行政にも 改革の波が

平成18年新春のごあいさつ

遠藤正寿議長



大不況という長いトンネルをやっと抜け、やや明るさが見えた新年の幕開けでした。皆様方には、さぞ希望に満ちた新春を迎えられたと心からお慶び申し上げます。

昨年、国の政治は大きな改革の年でした。また、日本経済も踊り場を脱し、緩やかな回復を続けています。株価も五年ぶりに一万六千円を回復しました。さて、我々の伊豆市はどうでしょう。合併をして二年が経過しましたが行政も、議会も、市民もただ必死になって耐えてきた感じがします。

まだまだ、十八年度の予算は厳しいものが予想され、決して安心できる路線に乗ったとは言えません。温泉、温暖な気候と環境に恵まれているのは伊豆の

強みですが、依然として交通渋滞が各所に起こり、都心から見れば伊豆は近くて遠い存在です。伊豆中央部のアクセス整備と伊豆縦貫道の早期の完成が切望されます。また伊豆市の産業・経済の元気度はどうか。観光産業・農林漁業どれもその落ち込みは大きく、まことに厳しい状況にあります。ここまですると均衡縮小の合理化策だけでは「活力あるまちづくり」は出来ません。ここは思い切った行財政改革を断行し、組織のスリム化と経費の大胆な削減、それに合併特例債を中心に余力資金を「活力あるまちづくり」に充てたいものです。

本年は伊豆市の将来のために本来の意味で改革の年にしたいものです。議会も腹を据えて取り組む必要性を感じています。特に次の事業については、早期に完成するよう、議会一丸となり活動を行いたいと思います。

- 一、天城北道路の建設促進
- 二、ゴミ処理施設の建設
- 三、火葬場の建設
- 四、田方消防南署の建設計画の推進
- 五、台風災害の早期修復

全体として伊豆市の予算は厳しいものがありますが、国・県のご支援を得ながら将来の優先課題を吟味し、着実に成果をあげていきたいと考えます。今は市民と行政が協働で進めることが大切です。今後とも市民の皆様様の絶大なるご支援をお願いします。



伊豆市の動き

市長行政報告

伊豆の国市と共同で ごみ処理施設を建設

ごみ処理施設の早期整備に向けて作業を進めております。現在、清掃センターのごみ焼却施設は、経年劣化等により「安心・安全・安定的」な運転が大変懸念されていることから、新たな施設整備の取り組みが急務となっております。このため、環境への負荷や、建設及び運営に係る効率化等について、隣接する伊豆の国市と協議を行い、去る9月26日、「伊豆の国市・伊豆市廃棄物処理施設組合設立準備会」を設け、今後、二市共同による早期処理施設の整備や、円滑な一部事務組合の立ち上げ等を、精力的に協議・推進を図ることといたしました。



大城市長

国民宿舎の売却

国民宿舎木太刀荘につきましては、売却することといたします。また、土肥ふじみ荘につきましては、今回のプロポーザルは不調に終わり、再度、公募による土地付きの売却を検討して行きたいと思っております。なお、中伊豆荘は、現状における県との協議の中で、建物の売却は出来ない状況にあることから、来年度の売却に向けて、検討を進めて行きたいと考えております。

天城北道路などの 整備状況

天城北道路建設事業は、施工中の本立野トンネル掘削が、去る11月末現在、約830メートルまで進捗し、全長1,031メートルの約80%まで掘り進んだこととなります。予定では、平成18年1月末頃に貫通見込のことです。



天城北道路大平インターへの連絡道路の橋梁工事が始まりました。

天城北道路本線工事と共に、市の施工する大平のアクセス道路や、日向・矢熊の合併支援重点道路整備事業による県道整備など、いずれも供用開始時期が定められており、用地買収を急がなければなりません。特にアクセス道路については、右岸側の火葬場や消防南署の建設を考慮し、平成20年春の供用を目指して進めております。

以上の事業は、それぞれ相互に関連し、伊豆市の将来にとって重要な事業でありますので、地権者は勿論のこと、各地域の役員を始めたとする関係者の方々、議員各位のご理解、ご協力を改めてお願いするものであります。厳しい行財政の中で、行政改革を推し進め、すべての面において無駄を省き、効率の良い予算執行をすることができるよう、職員共々努力をしてまいります。



伊豆市のために

議員は、

伊豆市また市民のために何をすべきか、
今年の抱負を聞きました

(議席順で掲載)

杉山 誠

厳しい財政状況を乗り切る
行財政の改革が求められて
います。議員となり二年目
の今年、自らしっかりと勉強
するとともに、より多くの
市民との対話を通じて、生
活現場の声を市政に反映さ
せていきたいと思えます。

小森勝彦

市執行部の行財政改革への
取り組みは、あまりにも生
ぬるい。議会が独自の行財
政改革案をまとめ、市長に
提言(議会には実行する権
限はありません)できるよ
うに努めます。

山下 一

合併三年目に当り、市の特
色を出す時にきている。伊
豆市独自の観光振興計画を
確立し、官民協働で推進し
なければならぬ。民に出
来る事は民で、自然を生か
した地域づくりで交流人口
の増大を図りたい。

鈴木基文

予想以上に早く進む財源緊
縮の中で、合併による成果
を問われる年に入ります。
今、やる気のある民間人た
ちと、それと連携する意欲
的な行政が必要です。そん
な元気な伊豆市を作るため
活動していきます。

内田勝行

将来を担う子供たちの減少
は著しく、近い将来小学校
の統廃合にも関わって来る
と思えます。子供を安心し
て、産み育てるサポートは
何より大切ですが、同時に
喜んでお嫁に来てもらえる
伊豆市をつくりたい。

加藤 章

伊豆市となって三年目にな
ります。旧修善寺町の土地
の有効利用、地産地消の推
進、少子高齢化対策等、常
に住民の皆様の声を行政に
反映できる努力をして参り
ます。

飯田正志

一年の計は元日にあり。
伊豆市の計は、この十年に
あり。十年、二十年先を、
見通し、後世に負担を残さ
ないように自立に向かって
仲間たちと一緒に万事黙々
目的意識をもって積極的に
活動してゆきたい。

室野英子

子育て支援のために選挙公
約として開設を訴えたフア
ミリーサポートセンターが、
本年始まりです。子育て家
族や高齢者家庭の緊急時に
必要な援助が安心して受け
られるよう、今年も全力で
働きます。

磯 晴雄

伊豆市になり三年目を迎え
ます。これからも住み良い
街ナンバーワンを目指し、
安心・安全・安定の伊豆市に
また、早期の合併効果を期
待し行財政改革、待たなし
市民の意識改革と財政自立
の支援を推進します。

古見梅子

少子高齢社会。子供のいの
ちを守り、高齢者が安心し
て暮らせるよう、明るい家
庭・地域を築こう。男女が
協働で、力を合わせ実現し
よう。「明るい社会づくり
運動」を展開し、住みよい
伊豆市を目指したい。

鍵山堅一

数多くの観光施設や産業等
がある中、港湾整備審議会
も立ち上がり、美しい自然
のあるこの地を生かし、海
を拠点とした海から陸へと
つなぐ新たな観光ルートの
開発に取り組み、推進に努
めていきます。

森 良雄

伊豆市の一般会計の規模は、
昨年度は200億円台です。
本年度は160億円台です。
来年度は140億円台です。
財政規模の縮小が進みます。
福祉社会の建設が必要です。
なにをするのか、真剣に考
える時が来ました。

杉山莞央

伊豆市の道路網の充実と交通渋滞を緩和する為には色々考えられるが、一番の策は修善寺道路の無料化だと思われまので関係市町とも連携し、行政と議会の両輪で、一日も早い実現の為に全力で当たる覚悟です。

飯田宣夫

行財政改革の声を大にし、議員も『身を削って改革を求める』姿勢で取り組みます。今後、三位一体改革がどのように進むのか、次の合併も視野に入れ、自立できる自治体を目指して、財政力を増す施策に邁進したいと思えます。

酒井勲一

当市の人口減少は予想以上に加速して進んでおります。財政改革のスピードアップは至上の命であります。改革とは今迄の事を変える事ですから「痛み」を伴います。市民の皆さまと私達と協働して考えて行きたい。

木内一郎

美しい自然と温暖な気候に恵まれた伊豆市は絶好の住環境である。交通アクセスの整備は通勤を容易にできる。さらに幼児教育を重視した幼小一貫教育を推進し、子育ての悩みを軽減すれば、人口増に繋げる。

塩谷尚司

厳寒のなか明るい春を待ちわび土の中から芽を出す蔭の頭を見つけました。伊豆市を取り巻く環境も大変厳しいものがあります。明るく確かな伊豆市構築のため、初心に返り議員活動に精進してゆく覚悟でございます。

関 邦夫

会派ができて今年から活動開始。行財政の大きな問題から当事者にとつては大事な地区の小さな問題まで、付託に答えられるよう会派で良く勉強し検討する。自会派外からも賛同が得られるような良策を提案したい。

小野忠宏

今、伊豆市の課題は財政を強固にすることに尽きます。これを解決するために何が問題点で、どんな施策を打つべきかについて市民の皆さんとの対話を進めながら、議会に呼びかけて行きたいと考えています。

大川 孝

人は活力の源泉です。市民が描く理想の未来像を実現するため、人口減対策を始め、福祉・環境などの諸問題を、皆様と共に考え、解決の糸口を探っていく所存です。素晴らしい伊豆市を次の世代に残すために。

三須重治

伊豆市の喫緊課題として、以下の事へ取り組みます。
・ 治山治水の再検討・少子高齢化と人口減少への対応
・ 観光産業活性化へ官民一体で取り組む・実行性の高い小さな行政機関の確立

堀江昭二

今年三月で合併丸二年になります。三年目に入る訳ですが、市民の皆様は合併して良かったと思われる事を一つでも二つでも成し遂げなければなりません。後を見るで無く、前進あるのみで進んで行きたいと思っています。

高田和正

議員として何を言うかより何をやるかを信条としております。総務委員として、廃棄物処理施設等多くの問題を抱えており、行政と共に早期実現に向かって努力いたします。

木村建一

「町単独では、住民サービスが維持できない」といつて合併したのに、維持されていますか。
合併は『くらしを守るため』を決して離さず、ごいっしょに、希望もてる伊豆市にしていきましょう。



12月定例議会の概要

12月定例議会は、6日から21日までの16日間で開催されました。補正予算は、一般会計については、災害復旧と給与費等の調整、特別会計については、年度末を見越した事業精査による経費や給与費の調整が主なものです。

その他条例改正は、指定管理者制度へ移行するための改正が主なものです。全て原案どおり可決となりました。

提出議案

補正予算

一般会計補正予算、特別会計補正予算12件

条例

中伊豆体験農園条例の制定について 他条例の一部改正について11件

議決

第一次伊豆市総合計画基本構想の策定について 他9件

諮問

人権擁護委員の推薦について 諮問があり、井上祐宏氏（貴僧坊）、山居英明氏（湯ヶ島）、瓜島昌子氏（下白岩）が適任と認められました。

平成17年度伊豆市 一般会計補正予算 (第4回)

17年度の歳入歳出予算の総額に1億5,100万円を増額し、歳入歳出予算の総額は163億3,400万円となりました。

台風11号による農地災害、農業用施設災害、林業施設災害等の復旧工事費、また高齢者を地震から守るための家庭内家具固定業務委託費等の増額が計上されています。なお、天城給食センターの業務については、民間委託することになりました。

特別会計

12議案が原案通り可決されました。事業費の確定や人件費の減額が主なものです。

国民健康保険特別会計では、1,870万円の増額となりました。

これは、給付費の増大によるものです。

介護保険特別会計では4,790万円が減額されました。

昨年10月の法改定により、介護サービスから、食費、居住費が、自己負担とされたことによるものが主な内容です。今後、低所得者の過大負担とならないよう見守る必要があります。

新ゴミ処理施設整備の 事務委託

伊豆の国市とごみ処理施設の共同建設に向けての準備会が開催されました。候補地選定調査・施設建設計画の作成を外部に発注するため、伊豆の国市へ事務委託をすることが必要となったため規約を制定しました。

中伊豆体験農園

条例を制定

現在中伊豆地区に建設中の体験農園の、設置と管理運営について定める条例です。

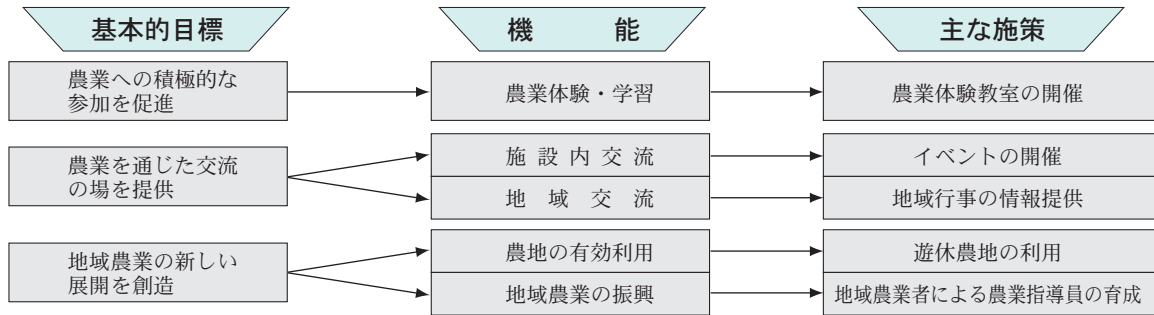
この農園は、農業を通してゆとりある余暇と安らぎの空間を提供することによって、都市との交流を深め、地域農業の活性化に寄与することを目的としています。年間使用料は、ラウベ（休憩施設）付き農園36万円、一般用農園1万円2千円。

施設の管理運営については、指定管理者を設置するが、経営の全面委託はせず、行政と指定管理者が協同で運営にあたります。これは、開業当初は独立採算が難しいとの判断による当面の措置であり、今後の運営状況を見て利用料金制による運営全般の指定管理者への移行を考えているとの運営方針が市当局から示されました。



市民農園の機能

農業体験や農業に対する学習機会を提供することを基本とし、その他農業を通じた交流や地域農業の新たな展開につながる機能をもった施設を目指します。



指定管理者制度導入へ向け、市営施設関連11条例を改正

「伊豆市コミュニティ防災センター条例の一部改正」など、市が所有管理する観光施設、地域集会場など18施設の管理運営を、指定管理者に委託するための制度を整えるために、これらの施設の設置運営に関する11条例を改正しました。

対象となる施設は、地域集会所

総合計画基本構想の策定

伊豆市の平成18年度から10年間のまちづくりの指針を示す計画です。

少子高齢化、国際化、情報化、地方分権等、大きな変革の中で福祉や産業教育など、各分野でのこれから進む基本方針を定めました。

ダイジェスト版を各戸に配布する予定です。ぜひお読みください。



等が11箇所、公園3箇所、観光商工施設4箇所です。指定管理者の選定の方法は、公募と公募によらない方法とがありますが、今回対象の18施設についてはいずれの場合も、施設の設立経緯と現状を考慮して指定管理者を選定することになります。

また、今回の指定管理者制度の導入は、地域集会所の利用料金等に影響を与えるものではないとの説明が市当局からありました。

指定管理者の指定

中伊豆室内温水プール

公募により、申請のあった5団体の中から(有)伊豆スイムサポートを指定管理者とすることに決定しました。

天城温泉プール

修善寺自然公園

指定管理者制度は公募が基本ですが、出資法人の解散等非常に大きな問題になることから、公募によらない指定で(有)伊豆市振興公社に指定をしました。

一般質問

内容については、要旨を掲載しています。

紙面の都合上、一議員一質問です。詳しくお知りになりたい方は、各図書館・議会事務局で会議録をご覧ください。

TO・JI博覧会の成果と展望は？

参加者の満足度は高かった

質問

伊豆市の特色を生かしたウエルネス産業育成事業として、伊豆市まるごとTO・JI博覧会が、観光に新しいウエルネスの視点の魅力を取り入れ実施された。観光振興は全ての産業振興につながり、伊豆市の活性化の為に重要である。伊豆市まるごとTO・JI博覧会の成果と今後の事業推進について伺います。

古見梅子議員

答弁

約50件以上のプランを開催しました。参加者の新しいプランに対する満足度は高かったと思っております。今後は、伊豆市の特徴などを全面に出し、観光客がいつでも体験が可能なメニューのハード・ソフト両面のシステムづくりや、問い合わせに対する反応の早さ、的確性を充実させるよう努めていきたいと考えています。

通学補助制度は不平等では？

教育の機会均等には該当しない

質問

遠距離通学費補助制度の目的は、義務教育の円滑な遂行というが、大沢バス停から修善寺中学校間の補助額は、在校生は7万6千円だが、新入生は9万1千円。また、前年より補助額が急激に減らない制度にしてあるというが、適用されない場合があるなど『教育の平等』と矛盾した内容になっていないか。

木村建一議員

答弁

通学費の補助は義務教育の円滑な遂行に寄与していると考えますが、教育の機会均等には必ずしも該当しないと考えます。規則通りになると、保護者の負担が一遍に増えるので、優遇措置を設けました。その適用を受ける方は外れた方、もともと適用されない方は当然差が出てきます。これも3年後にはなくなります。

過疎債活用で土肥活性化を！

自主財源減の中、効率等を検討

質問

過疎債は生活環境において国家が保障する最低限度の生活水準を確保、開発可能な地区には産業基盤を整備する事により、人口の流失を防ぎ地域社会の財政の破綻を防ぐ制度だと認識。夢のない予算でなく、過疎脱却の為に大きな予算組をし、補助率7割のこの制度を利用して活性化を図るべきだと思うが。

関邦夫議員

答弁

過疎債活用は旧土肥町の後期10カ年計画の後半を17年度から21年度まで行っている。国、県での枠があり可能性のあるものはすべて記載してあるが、大きなプロジェクトになると採択は難しい。伊豆市は予想より自主財源が減っているため、事業効率等を十分検討し、事業を進めなければならぬと考えています。

合併特例債で新トンネルを！ ↓ 特例債の使途など精査が必要

質問

伊豆市の最大の問題は修善寺駅周辺、横瀬および狩野川大橋の朝の交通渋滞。

これを根本的に解決するために合併特例債を使って、年川から大仁三福付近までのトンネル（約2km）を構築すべき。これで人口問題、財政問題が大きく好転すると考えられるが市長の所見を伺いたい。

小野忠宏議員

答弁

合併特例債の償還の約3割は一般財源が必要であり、一般財源が少なくなっている現状では財政状況に影響し、また、短期間に集中しての事業実施は市の財政面からも非常に難しい事です。中伊豆、古川、大仁と約40億の予算でのトンネルを抜いてとの提案は、特例債の使い方を含めた精査が必要です。

消防支署削減地区への対応は？ ↓ 県道日向バイパスで対応

質問

田方消防南署の建設候補地では、支署削減になる中伊豆地区、湯ヶ島地区の住民へ、火災時に不安のない出動体制等の説明をして住民感情を納得させるPRをすべきと考えるが？

また、救急車の出動は大変な回数だがドクターヘリの活躍を期待するが、管理体制等はどうか市の対応について伺います。

杉山羌央議員

答弁

中伊豆地区は、南署から日向地区の県道バイパスができ、迅速な消防・救急活動が行われると思います。また、閉鎖する支署を、地区の自主防など活動の拠点として利用方法があれば提案をいただきたい。県東部のドクターヘリ事業の運行は、伊豆長岡の順天堂病院です。なお、当市の出動要請者は田方消防本部です。

特養の更なる増床を！ ↓ 計画どおり55床で

質問

現在中伊豆地区八幡地内に許認可を申請中の介護老人福祉施設（仮称中伊豆の里）入所定員55名を更に15名増床出来ないかお伺い致します。市内2特養（伊豆中央ケアセンター、土肥ホーム）の待機者を調べたところ200人以上の高齢者が入所待ちです。企業誘致の観点からも地域の活性化のためにも増床を望むものです。

磯 晴雄議員

答弁

旧3町の時から平成18年度整備の定員が55床として位置づけられておりました。現在、伊豆市老人福祉施設整備計画検討懇話会の提案を受け、県の社会福祉整備審議会を経て国に申請を行っております。このような経緯から現時点の増床は難しい。今後も介護保険事業の実施に関しては、事業計画を踏まえ進める所存です。

地区懇談会の成果は？ ↓ 総合計画などの参考に

質問

地区懇談会の意義は、ただ単に市民の意見や要望を聞くだけではなく、市が市民に対し、開かれた行政である事の証しであり、アピールでもあります。実施した効果は大きいと感じています。市民からの意見や要望を、今後いかに行政に反映させるのか。

内田勝行議員

答弁

今回の意見、要望については、建設的なものは現在策定中の総合計画書の参考にさせて頂いていただきました。更に、会議録を作成の上、各部署単位に来年度以降の事業計画を作成するための参考資料とします。なお、一般的な要望事項については、各地区の要望に盛り込んだ上、区長を通じて提出していただければと思います。

鳥インフルエンザ対策は？ ↓ 国・県と連携し対応を

質問

市民の安全と安心のある生活を守り、観光立市として国際交流を促進させるとき、全世界で猛威を振るっている鳥インフルエンザを、危機管理責任者としてどう考えているか。またワクチンの確保と、健康と生命を守ることが必要です。効果ある対策を広報に掲載するよう市長の所見を伺います。

大川 孝議員

答弁

鳥インフルエンザのワクチンは、まだできていません。市としては、国・県からの情報提供や指導を受けながら、医療機関とも連携を密にして対応して行きます。また、手洗い励行、マスク着用、体力維持など、市民が感染防御に努めるように指導します。広報活動はやっているつもりです。

地域の消防力強化策は？ ↓ 住民の連携・協力が不可欠

質問

広い地域を有する伊豆市にとって消防力強化は重要課題。支署の統廃合で消防車到着が遅れる地区が出てくるが、サイレンの廃止された地区での同報無線の現実的活用法や、消防署と行政の連携の見直し、自主消防火班への支援策、消火栓やホースの総点検そして高齢者宅への火災報知器普及策について伺います。

杉山 誠議員

答弁

同報無線のサイレン運用は、地元と打ち合わせて善処したい。自主消防火班設置地区に対して、はつぴ、ヘルメットや保険について支援します。消火栓やホースの点検は、地元や消防団にお願ひしています。ひとり暮らし高齢者宅の火災報知器設置は、今後福祉関係と連携して検討していきます。

防災対策について？ ↓ 地域防災計画に基づき対応

質問

①防災マニュアルは作成されていますか。
②自主防災会を充実させるための方策はどのように。
③災害時における職員の緊急体制、市民への情報伝達法は。
④仮設住宅建設箇所の確保について。
⑤食料や飲料水等の確保と災害協定はどこと結びましたか。

飯田宣夫議員

答弁

①平成17年4月に作成し全職員に周知、9月1日に業務確認の実施をして全員の意見を取りまとめた。②活動及び資材整備に補助制度の活用。③出身地区配備、同報無線、広報車、地区を通じて等。④グラウンド10ヶ所、407戸分計画。⑤土肥は耐震貯水槽、他は豊富、現5万食備蓄、コンビニ、スーパーとの協定検討。

消防南署建設の内容は？ ↓ 車両増強に見合う建設計画

質問

田方消防南署建設は、旧中伊豆町、旧天城湯ヶ島町の両支署が廃止となり、安全安心に対し十分考慮した建設にしなければなりません。内容と進捗状況の説明を求めます。また、消防力強化と建物規模は比例しません。財政厳しい中、無駄なスペースの無い建設を求めます。

三須重治議員

答弁

建設に関する基本構想、基本設計及び実施設計については18年3月迄を期限に入札発注済みです。北署と比べ機能強化をはかり、消防ポンプ車4台、救急車3台、水難救助車1台を予定しており、消防ポンプ車、救急車とも増強し、建物は地上2階・延床面積2千平米を予定しています。

企業誘致の推進課の設置は？

質問

伊豆市の人口を増やす意味と、活性化のためにも、積極的に企業誘致の推進を行うべきだと思います。その取り組みべき組織としての、企業誘致推進課の設置を求めますが、市長の考えをお聞かせ願いたい。

答弁

来てくれる企業があったら積極的に進めていく必要があるのですが、情報提供をお願いしたい。伊豆市は新しい企業の進出はやや厳しいと考えているが、進出企業があれば市長自らお願いにあがりたい。場所探しや、天城北道路ができるので情報提供をお願いします。

飯田正志議員

ファミリーサポートセンター

設置は？

質問

子育て中の家族を支援する制度（家族の病気など緊急時に安心して乳幼児を預けられる）ファミリーサポートセンターの設置に期待する声は、高まっています。

どのように計画し、推進しているのか伺います。

室野英子議員

18年度から開始予定

答弁

今後、社会福祉課家庭児童相談室に事務所を置き、家庭児童相談員がアドバイザーを務める予定です。今年度中に会員活動の手引きを作成し、伊豆市ファミリーサポートセンター事業実施要綱を制定し、18年度から同センターの事業を開始する予定です。

幼保一元化への取り組みは？

質問

親が安心して働ける環境づくりは、人口増加を推進するために必要です。現在、幼稚園、保育園合わせ17園あります。幼児の減少や経費削減を考慮すると、施設と経費の有効活用を促める必要がある。統廃合を視野に入れ、幼保一元化を進めなければなりません。この現状や対策をどのように考えているのか。

木内一郎議員

答弁

共働きや再就職を容易にし、就労への支援は、安心して働ける環境づくりとして重要です。国は幼保一元化の総合施設モデル事業を試行しています。今後も出生数の減少を止めるのは難しいと思います。また、保護者の多様なニーズに対応するため、国の動向を見据えながら総合施設の設置を検討していきます。

天北道路周辺の将来展望は？

質問

天城北道路大平インター供用開始と、そのアクセス県道（修善寺・天城線）の拡幅整備後の沿線一帯は伊豆市の中心地に当たり、交通の要衝として、伊豆市発展の重要な地域と考えるが、市長はその将来展望をどのように描いているか。

加藤章議員

有効な地域計画の策定

答弁

天城北道路のインター周辺は、道路網の整備の面で、南北あるいは東西の交通アクセスの機軸という大変重要な地域である事は間違いありません。今後は総合計画、土地利用計画との整合を図り、旧修善寺町の都市計画区域である事も念頭に置きながら、有効な地域計画を策定したいと考えています。

収入役の職務代理者は？

会計課長が執行

質問

出納その他の会計事務について全責任をおう方は市長ですか。

森 良雄議員

答弁

現在、収入役が空席となっており職務代理は、会計課長がその権限についての事務を執行しております。

地域活動支援のための支所体制は？

市民のための支所に

質問

各区や旧町単位で地域活性化のためや、コミュニティづくりの事業が実施されています。市として資金面や人的な支援をしていますか。また、各支所が地域の活動を支援できる体制をつくる必要があると思いますが、市長の所見をお聞かせします。

鈴木基文議員

答弁

伊豆市ふるさとづくり事業補助金により、各地区での地域活動やコミュニティ育成のための事業に補助金を出しています。支所機能については、より市民のためになる支所にしていくと思っています。4月をめどに考えています。

虹の郷の指定管理者は？

当初は振興公社で

質問

虹の郷の運営については、指定管理者制度を利用した民間委託の考えが示されていますが、2点伺います。

- ①現在伊豆市振興公社がその運営にあたっていることを考慮した上で、指定管理者の選定方法と公社の今後について。
- ②公社が指定管理者に選定された場合の公社の資金調達について。

小森勝彦議員

答弁

- ①指定管理者の選定は公募が基本ですが、振興公社の性質と現状を考慮して、当初は公募によらず、公社を指定する考えです。契約期間は3年とし、その間に公社のあり方について検討します。
- ②基本財産1億円等の固定資産を担保として利用するなどして、独自の資金調達は可能です。

伊豆市の新農業改革は？

小農家育成を重点に

質問

農水省では担い手の規模を拡大する方針のようですが、市全体で1,336haの農地を荒廃させないために、法人化は避けて通れない問題と考えます。「前例主義が未来を妨げる」を念頭に入れ、新しい伊豆市モデルの農業改革を進めるべきと考えますが、市長の考えをお聞かせいただけますか。

酒井勲一議員

答弁

政府案の要件を満たす認定農業者、集落営農組織の立ち上げは難しいので、伊豆市は地産地消を通して特産品を育て、それらの生産者である高齢者も含めた小農家を育成するような、独自の農業政策を検討します。国の施策の方向もあり、法人化も視野に入れた施策を考える必要があると思います。

12月定例議会

決議・請願

市道矢熊筏場線の早期改良と伊豆横断道路建設促進に関する決議は可決

市道矢熊筏場線は、旧天城湯ヶ島町と旧中伊豆町を結ぶ重要な地域間道路です。

また、東海岸と西海岸を結ぶ東西交通と伊豆縦貫自動車道とが交差する要衝であり、アクセス道路と期待されます。

については、観光及び産業振興の促進道路として位置づけ、市道矢熊筏場線道路改良工事を伊豆市総合計画の実施計画に盛り込み、早期に実現するよう市長に求めました。

「最低保障年金制度」についての請願は不採択

三島田方年金者組合から国に対し「最低保障年金制度の意見書の提出について」の請願がありました。

これは、「厚生年金、共済年金、国民年金すべてに共通する年金の土台を一階部分として、全額国庫負担による一定額の最低補償額を設けるという最低保障年金制度を創設し、その上に、掛け金に応じた給付を上乗せする制度」との説明がありました。

「弱者救済ということに関しては賛成だが、矛盾が多く再考を」など活発な論議の結果、請願は不採択となりました。

議会報編集特別委員を改選

12月定例会で、議会報編集特別委員会の委員が任期満了（任期1年）により、改選がおこなわれました。

その結果、次の議員が選任となりました。

皆さんに、分かりやすく読んでいただけるよう、紙面づくりに取り組んでまいります。

皆様方からも投稿をぜひお願いいたします。

委員長／加藤 章(再)

副委員長／関 邦夫(新)

委員／木村 建一(再)、磯 晴雄(新)

内田 勝行(再)、小森 勝彦(再)

鈴木 基文(再)、杉山 誠(新)

※()内は、再任・新任

森嶋議員が逝去 ご冥福をお祈りいたします

昨年の11月26日、53年11ヶ月のひとりの人生が突然終わりを迎えました。伊豆市議会議員故森嶋正太氏です。肺がんでした。



故 森嶋議員

森嶋氏は、平成16年11月大志を持って市議会議員の職に就き、故郷伊豆とそこに暮らす人々のために日々精進を重ねていました。5人の新人議員の中でもリーダー的存在で、手作りの議会報告や勉強会の運営などを企画し実現しました。強い正義感と卓越した行動力の持主。そんな森嶋氏を失ったことは、議会だけでなく伊豆市民にとっても大きな痛手です。氏の故郷への思いを胸に、議員一同心よりご冥福を祈ります。

常任委員会活動報告

福祉文教委員会

どう変わったのか

介護保険制度

12月15日、介護保険制度改正について勉強会を行いました。

今回の改正は、平成12年度に始まった介護保険制度の見直しの一環です。

改正の特徴は、介護予防と自立支援を強化して、高齢化の進行に伴い、増え続ける保険給付費を抑え保険料の急激な増加を抑えることとあります。介護予防とはできる限り要介護状態にならないようにする。たとえば要介護状態になってもそれ以上悪化しないようにする取り組みです。旧制度では、できないことを補うサービスの提供が主でしたが、新制度では、できることを引き出すサービス、その人の意欲や能力を引き出す目標指向型のサービスを提供し、自立した生活を促すことを狙いとしています。



◎改正の主な点

- ①旧制度における要支援は要支援1とし、要介護1は要支援2と要介護1に分けます。心身の機能の維持・改善が見込める人(要支援1・2認定者)のために、栄養改善などの新予防給付の制度が制定されました。
- ②介護は必要ないが虚弱な高齢者のために、地域包括支援センターを創設します。
- ③施設サービスの利用者の居住費、食費は、自己負担となります。
- ④低所得の人については、施設利用が困難にならないように自己負担限度額を設ける、などの説明を受けました。

観光経済委員会

土肥漁協と懇談

『土肥の水産業・漁業の現況と課題』をテーマに、平成17年11月15日、土肥漁業協同組合と懇談会を実施しました。

土肥地区の天草は、質・量とも全国一、二位を誇る特産品です。しかし今後は、どのように付加価値



倉庫内の天草を視察する委員

値を付けるかが最優先課題となっています。コンクリートブロックの漁礁づくりによる増産策は、資金不足のため現在では行われていません。トコブシやアワビ等の稚貝の放流に関して、小下田は岩が多いため、そして八木沢地区は砂浜のため、その実施が難しいことが報告されました。また、黒マグロの養殖の可能性についても、波が高いので無理との見解が示されました。

現在の問題点は、後継者不足です。浜地区を除いて悲観的な状況に直面しています。県による育成支援も進捗していません。

漁協からの要望として、港の整備、改修が表明されました。また今後の漁業振興策の一つとして、健康食品としての注目を集めている天草に、どのように付加価値を付けたら良いのか、さらにはブランド化の可能性に関して、積極的に取り組むべきとの提案がなされました。

農林漁業の分野における後継者問題、そして明るい未来展望の構築など、市民と行政が共に打開の道を探る努力が必要です。

仁王局長による議会運営研修



議員研修 沼津市の議会運営は

沼津市議会事務局の仁王局長と井原係長を招き、沼津市の議会運営を研修しました。

市の議会運営は、会議規則によってほぼ同じですが、申し合わせ事項や慣例等により運営の仕方に違いがあります。

今後の伊豆市の議会運営に参考となりました。

第1回田方市町議会議員 グラウンドゴルフ大会 グラウンドゴルフで親睦

田方市町議会グラウンドゴルフ大会が天城ふるさと広場で開催されました。議員相互の親睦を図り、今後の広域的な議会運営に寄与することを目的として行われ、伊豆市、伊豆の国市、函南町の議員と三島市議員の有志が特別参加し、総勢70名で繰り広げられました。



◀選手宣誓をする
杉山誠議員と古見議員

各市町の混成チームでプレー

議長席にすわり議事進行 ▶



熱心に説明を聞く湯ヶ島小学校の児童

湯ヶ島小2年生社会科見学 議会ってどんなところ？

湯ヶ島小学校2年生が、社会科見学で、議場を見学しました。

議会とはどんなことをするのか？また、議員さんはどんなお仕事をしているの？などの質問がありました。

そのあと全員、議長席に1人ずつ座り、初体験に喜んでいました。

みんな将来の伊豆市をよろしく！！

議員パソコン研修

議員パソコン教室（議会事務局主催）が行われ、14名が参加しました。

これは今後、議員と事務局との提出書類等をワードデータやメールのやり取りにより、事務の効率化を図る目的で行われました。



真剣にパソコンに
取り組む参加議員

議会傍聴へ行ってきました!

「初心忘るべからず」

佐藤昌悦さん 65歳 (八幡)

今回市議会を傍聴する機会が与えられ、またその傍聴記をとの要請があり、標記のような観点で筆をとらせていただきました。

12月定例議会の最終日とあって選良の皆さんは定刻を守り、行政の市長以下部課長と真剣な表情で臨んでいました。4つの委員会の質疑応答の様子が、それぞれの委員長から報告されました。委員会の議題の内容にもよるのかもしれませんが、活発な意見がでた委員会とそうでない委員会との差が激しいことも、伺い知る事ができた気がします。12月6日に議案が上程されて、8日・9日の一般質問の間まで意見・疑問等勉強する時間があります。さてここからです。果たしてご自身が選挙公約に掲げ研修された事に対して、委員会ですっきりした、質疑討論がなされているのでしょうか。(この委員会の様子も傍聴できるのでしょうか。むしろこの委員会の様子を公開していただいた方が、自分の選んだ選良がいかに活躍しているかがわかって、市民にはより親近感が増すと思います。またインターネットでの公開を考えてみてはいかがでしょうか。)

最終日を傍聴させていただいた限りでは、賛成・反対の討論に丁々発止とした活発な議論がなされなかったと思いました。大変僭越ですがいま一度標題を肝に銘じて、伊豆市民の幸せのためにご精励下さい。

「議会傍聴に参加して」

萩野富央さん 66歳 (八幡)

12月21日、中伊豆地区民生児童委員15名は市議会の傍聴に行ってきました。当日の傍聴は私たちだけでした。

傍聴の目的は、傍聴を通して私たちの日常活動(赤ちゃんから高齢者まであらゆる福祉活動)に少しでも役立つことはないだろうかと考えたからです。議員25名の出席により9時30分開会され、定例会議事日程第5日目(最終日)で各常任委員長の委員長報告他32議案が上程され、内容は一般会計補正予算をはじめ天城北道路用地取得及び国保、介護、簡易水道等の幅広い分野の特別会計補正予算が審議された。11時30分傍聴を切り上げて、午後から土肥地区の駿豆学園と長岡のいちごの里(介護施設)を見学して帰宅した。年末の忙しい一日でしたが今後の民協活動に大いに役立ち、有意義であったことは確かであり、これからも議会傍聴を計画したいと考えています。議会関係者の皆さん、これからも活動に期待します。

あなたも議会傍聴をしてみませんか 3月定例会の日程

天城湯ヶ島支所 議場 午前9時30分～

2月24日(金) 市長施政方針、議案上程、提案理由説明

3月2日(木) 議案質疑、委員会付託

13日(月)・14日(火) 一般質問

16日(木) 委員長報告・質疑・討論・採決

※日程は、変更となる場合があります。

編集後記

「議会広報は議会を写す鏡である」と議会関係の本に書いてあったのが編集に関わる様になって印象に残ります。

簡潔に言うなら、議会活動が活発ならおのずと紙面の充実につながるかと理解して良いかと思えます。また議会、たよりは議卒と住民とのコミュニケーションの場として大変重要な役割を担っている事をここで再確認する必要があるかと思えます。

今日まで議会傍聴の感想文を多くの皆様より寄せて頂き誠にありがとうございます。励ましの言葉を糧に、親しまれる議会だよりを目標に努力して参ります。併せて今後のご支援とご協力をお願い致します。

委員長 加藤 章

